

# வணக்கம்

スリランカ通信 No.3

平成29年度青年海外協力隊

和田さとみ

環境教育



和田さとみ

வணக்கம்! (ヴァナツカム=こんにちは) 和田さとみです。岐阜県のみなさん、お元気ですか。10月も終わりに近づき、日本はもう肌寒くなってくる頃でしょうか。サバナ気候下にあるスリランカは雨期に入りました。夕方になるとバケツをひっくり返したかの如く、豪雨となります。道は日本のように完全舗装されていないので、まるで洪水状態…。しかし朝までにまたカラッと晴れて、昼は炎天下が続きます。ここにいると「寒い」という感覚を忘れてしまいそうです。

★★★

スリランカでの生活も3ヶ月目に入りました。職場であるパッティカロア市役所や家庭でも現地の人に恵まれて、日頃から困ったことを質問すれば、いろいろと教えてくださるので、生活にこれといった大きな支障はありません。ありがたいことです。

## 市役所での活動

### ゴミの回収 現状調査

私は、学校で環境問題やゴミ分別に関する啓発活動(ワークショップ)をすることが大きな仕事の一つですが、生徒児童にゴミや環境問題の話をするためには、まず自分自身が現状を知っておく必要があります。新規で派遣されていることもあり、この現状調査にとっても長い時間をかけています。先日は上司にお願いして、この地区のゴミが一斉に集められる最終処分場を視察しました。



最終処分場にて

パッティカロア市役所には、廃棄物管理を含む保健衛生分野の職員が107名働いています。ゴミ収集は朝の6時30分からスタートし、収集車(Mトラック)が16台稼働していて、パッティカロア市内9区域を回ります。その様子はなんと、GPSが搭載されているため、収集状況を市役所内で追跡することが可能です。途上国とは思えないびっくりするようなシステムがあります。しかし、最終処分場にいくと、ビニール袋や紙、タイヤやガラスなど分別されることなくグチャグチャに山積されていました。かろうじて分別されていたのは医療ゴミとペットボトル、そして堆肥化するための生ゴミ、この3種類でした。病院の点滴のブラゴミや医療



最終処分場の市役所労働者

注射針が無造作にも一塊に集められていました。他のペットボトルとは分別をされているものの、労働者は暑さのため、市役所から支給されたゴム手袋や長靴を履くことなく素手とサンダルで作業をしていて、とても危険でした。日本では、ゴミがどう処分されるのか、どんな環境問題があるのかについては、小学校から、社会科や普段の清掃時間等で自然に学ぶ環境が整っていますが、途上国ではそうはいきません。残念ながら道端でプラスチックのゴミや紙のゴミのポイ捨てをよく見かけます。大人も子どももポイ捨てをします。…さてさて、この現状下、どうやってごみの影響について学校で伝えていくな…。現在、学校環境教育プログラムを計画中です。(1月からスタート予定)

### 市役所職員向け研修

協力隊は、赴任先でマンパワーとしての活動も期待されています。市役所の

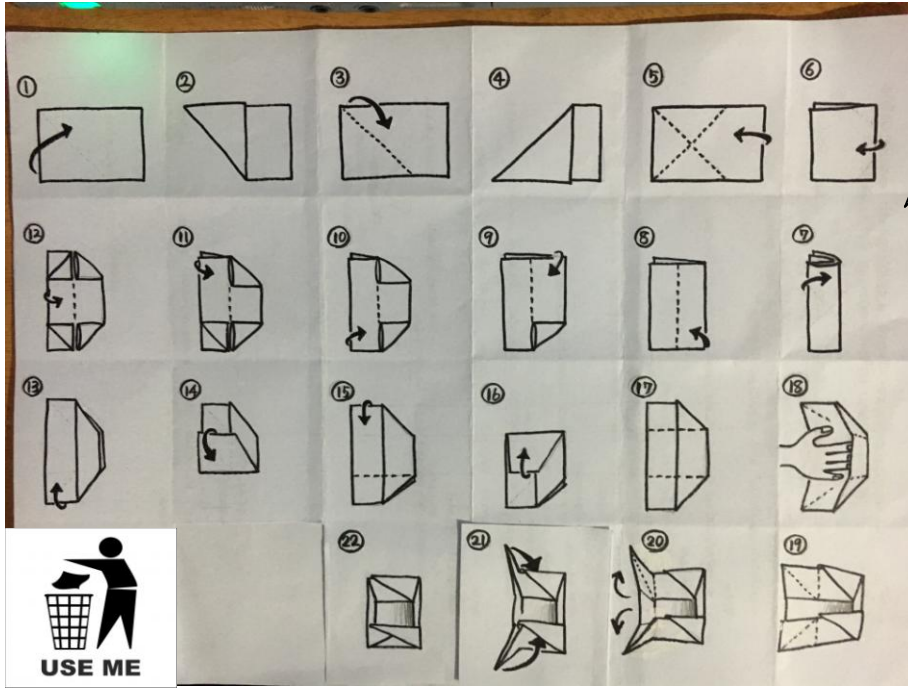
行政管理官との何気ない会話の中で、市役所内の職員向けに講座をしてほしい、という要請があり、10月10日にチームビルディングワークショップを行いました。(※チームビルディングとは…仲間が思いを一つにして、共通のゴールに向かって進んでいける組織づくりのこと)約50名の職員が参加しました。異なる部署どうしのコミュニケーションが不足しているとのことだったので、これまで関わったことのない部署の職員同士が活動できるように意図的にグループを組み、リサイクルペーパーで塔を作ってもらいました。活動の最後には、ワークショップで使用した資材を皆で片付け、清掃する活動も入れました。事後アンケート結果を分析し、市役所助役に提出しました。市役所職員研修は今後も定期的にも実施します。





## リサイクルボックスの作り方

次の市役所職員研修で実施する、リサイクルボックスの作り方を紹介します。



紙のサイズにより、様々な大きさになります

一度、必要なくなった紙で作ってみてください。厚めの紙で作ると、結構丈夫な箱ができます。私は、市役所で使われなくなった両面の紙を使ってメモ入れにしたり、ワークショップ内でも、容器入れとして毎度活用したりしています。職場からこの箱の作り方を教えてほしい、と要望があったので、次回の職員研修で実施します。こういった折り紙の文化は、日本が世界に誇る文化の一つです。折り鶴一つでも、海外の人とコミュニケーションをとる手段にもなります。

## スリランカの豆知識①：ポーヤディ



↑ヒンドゥー教のカレンダー

宗教によって暦(こよみ)が異なる

スリランカは多民族国家であり、国民の宗教も仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教と様々です。それぞれの宗教上の祝祭日は、そういったスリランカの国民性を配慮して、各宗教の大切なお祭りの日は全て国民の祝日に指定されています。その中でも仏教徒たちの休日「ポーヤディ」は、満月の日となっています。満月の日は労働を断って一日体を休め、寺院へ参拝する聖なる日としています。満月は毎月たいていやってくるので、満月の度にスリランカは休日になります。ポーヤディは役所も銀行も閉まり、またアルコール類は御法度となります。高級ホテルのレストランでさえもお酒は出さないという徹底ぶりです。首都のコロンボで滞在していた時、ポーヤディの日に町に繰り出したことがありますが、外国人向けのカフェや食堂以外は、ほとんど店はやっていませんでした。しかしながら仏教徒の多くはシンハラ人なので、今紹介したような状況は、シンハラ地区にだけ見られる光景です。実は私の任地であるここパツェィカロア地区は、タミル人が9割なので、ポーヤディは国民の休日であるのは変わらないのですが、店はたいてい開いているからおもしろいです。(タミル族の7割はヒンドゥー教、2割はイスラム教、1割はキリスト教)同じ国ですが、地区によって全く状況は変わります。日本では考えにくい状況が日常にあります。

## スリランカの豆知識②：小袋売り

スリランカの道沿いには、小さな売店があって、店内にはシャンプーや薬といった日用品から、野菜、たまごや穀物、お菓子など、実に様々な物が売っています。売店は、実際に店内を回れるほど大きくないため、店先で「〇〇ください」といってお願いして必要な物を取ってもらって購入します。店にぶら下がっている物、それは洗剤だったり、お菓子だったり、スリランカでは欠かせない紅茶や、粉ミルクだったり...そういったものがちいさな小袋に入って売られています。これは、「ちょっとお試しで買ってみるか!」という人のために売られているわけではありません。低所得層の住民のために小袋売りをしているのです。スリランカでは、貧困を目の当たりにします。道端にはそれらの小袋がたくさんポイ捨てされています。貧困と環境問題は常に隣り合わせです。



↑近所の売店 所狭しと、たくさん小袋がぶら下がっている。



ではNo.4で会いましょう!

国際協力に興味のある人は 独立行政法人国際協力機構 (JICA) <https://www.jica.go.jp/> をチェック!